

令和5年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
105	川崎市立 麻生小 学校	山岡 昌子

学校教育目標	今年度の重点目標
○進んで学びとろうとする子ども ○自分で考え、進んで行う子ども ○美に感じ、思いやりのある子ども ○心身ともにたくましい子ども	1. 互いを大切にし、認め合い、高めあえる学級・学年づくり 1ー2.人権尊重教育を基盤とした教育の実践 2. 主体的に考え、課題を発見し、解決していく力の育成 3. 自分の命を守り、生涯の健康づくりができる子ども達の育成 4. 保護者や地域との協力体制の更なる推進 ※すべての活動を通して地域と保護者と協働します

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策	
豊かな心・人権尊重・児童理解	1 集団の一員として折り合える力やリーダーシップを発揮する力の育成	<成果> ○コロナ5類移行により、制限に縛られず運動会や学芸大会などの教育活動が全員参集型で実施できた。また、授業参観の開催でき、児童の学習に対する意欲の高まりが見られた。 ○友だちと力を合わせて、係活動や実行委員の役割を果たすことに満足を感じている児童が増えた。高学年では、委員会・クラブ・企画委員会等、集団や学校全体に関わる活動ができた。	<自主的な活動の推進> ○支援の効果を高めるために、係や行事の目的を伝え、児童が目標をもち具体的な実現に向けた主体的な取組を促すとともに、保護者にも協力を仰ぐ仕組みを築いていく。 ○現在進められている児童の自主的な取り組みを「キャリア在り方生き方教育」の全体計画に位置付け、キャリアパスポートの内容に反映させる。	
	2 学校生活の状況を振り返り、自ら主体的に問題意識をもって改善に向けて取り組み行動する力の育成	・定期的に「生活アンケート」を実施し、学校生活の振り返りを行う。また、気になる回答については、個別に面談して教職員が児童の様子を聞き取り、支援 ・月目標を学級全体で振り返りよりよい生活態度を養う話し合い活動	○人権尊重教育、道徳、子どもの権利条例、人権教室、CAP、SOSの出し方受け止め方教育、いじめ防止キャンペーン等、年間指導計画の中で系統的な指導が実施できた。 ○学級内での児童のつぶやきや児童間の助け合い、異学年交流の中で優しい心配りがみうけられた。	<人権尊重教育の更なる推進> ○教職員の人権意識の向上、スキルアップのために人権校内研修を年間計画に位置づけ実施する。 ○効果測定や学校生活アンケートを計画的に実施し、必要な場合には個別に面談を行うなど、児童の様子を丁寧にみとる力をつけていく。また、結果については、「人権尊重教育部会」で分析結果を共有するなどして、指導改善にいかす。
	3 清掃活動や奉仕活動などみんなが気持ちよく生活できる環境を自主的に作り出す力の育成	・入学当初の1年には6年生が清掃の仕方、給食準備配食・片付けの仕方を教える活動。 ・当番制によりすべての児童が、活躍できる場の設定	<課題> ○示されたことを真面目に取り組む姿は見られるものの、自分たちで考え創造していく力の育成には課題がある。児童の主体性を引き出す指導の工夫を今後も継続していき、児童のアイデアが叶えられる場面を増やし自己有用感を感じられる機会を意識的に設定し自信を培っていきたい。 ○昨今、個に応じた支援が多様化しているため、教員が児童の指導や保護者間の理解の共有に苦慮することが増えた。教職員間の情報共有を密にし、早期にチーム支援につなげたい。	<いじめ防止・児童支援> ○温かで受容的な雰囲気や学級づくりを目指す。 ○児童と教師の信頼関係の構築に努める。 ○児童の様子を日常的に観察し、変化を見逃さないよう努めるとともに、声掛けやアンケートなどでいじめの兆候を察知する体制を整える。
	4 いじめを絶対にしない、ゆるさない人権尊重教育の推進	・日頃の学校生活で自らが「大切にされている学校の一員」また他の児童も同じ大切な一員であるという帰属感の醸成 ・道徳、共生*共育、子どもの権利週間、SOSの出し方教育、いじめ防止キャンペーン、CAPの実施	○行き渋りや学校生活で困ったことを担任だけでなく、学年や級外、CO、養護教諭など誰でもが受け止めて情報共有し、支援につなげられる体制を更に強化していく。	○いじめや児童が困っている実態を早期に把握し、支援教育Co.を中核としたケース会議を開き、中長期の目標、計画、役割分担など、チーム支援が機能するように努める。 ○多様な考えや個性を認めつつ、人と人とのつながりが温かく、思いやりがある学校風土の醸成に努めていきたい。
	5 児童と教師、児童同士が多様な他者の考え方や立場を理解したうえで温かな関わりをうむ学級・学校づくり	・多様な考えを発表したり、児童の素直なつぶやきが拾い上げられる教室の受容的な雰囲気、授業づくり ・違う考えや思いに触れ、否定せずに認めつつ、自身の納得解をだしている学級経営		
	6 自尊感情を大切にしていよりよい自分を作っていくことのできる力の育成	・キャリア在り方生き方教育、共生プログラム、道徳をはじめ、全ての教育活動の中で、自信の強みを生かした輝く場所の設定		

7	確かな学力	基礎的・基本的な知識・技能・学び方の確実な習得・活用	・学習指導要領に準拠した教育課程の編成および円滑な実施およびモジュール時間の活用 ・年間カリキュラムに添い、指導と評価を繰り返す中での基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得	<成果> ○児童の主体的な学びを引き出すために、教材づくりや発問を工夫するなど授業改善に努めた。 ペア・グループでの話し合い活動等、感染状況を見ながら子ども同士が関わり合う活動形態を取り入れた。 ○朝のEGタイム等を活用して計算や漢字練習等を行い基礎学力の定着に努めた。 ○国語の研究授業を全員が実施し、授業力の向上に努めた。 ○町探検やのびのびファーム、福祉体験等、体験的な学習を計画通りに実施できた。 ○市学習状況調査結果を活用しGIGA端末での個別学習なども進んだ。	○今後も課題解決のために児童が自ら動きだし、様々な人との関わりを通して学ぶ姿の実現を目指す。児童がこれからの時代に求められる資質・能力を身につけ、生涯にわたって能動的に学び続けられるための学校教育でありたい。 ○校内研究や確かな学力部会で取り組む内容を軸とし、指導時期を見直し、学習内容や学習材を関連付けるとともに、各教科で身につけた力を広く他の学習や生活の場面で活用する視点をもって教育課程の編成に努める。 ○「かわさきGIGAスクール構想」のもと、個人情報管理などを厳重に行うとともに、GIGA端末を有効に活用できる授業づくりを更に実践していく。先行した取り組みが教職員全体で共有されるよう職員研修にも取り組んでいく。
8		思考力・判断力・表現力・コミュニケーション力等を育成するカリキュラムの工夫	・各教科・領域についての指導の単元計画を見通して、思考・判断・表現力等がつけるカリキュラムを作成 ・1時間ごとの授業での見取りによる柔軟な指導法の変更	<課題> ○読み書き等基本的な学習と、GIGA端末の活用場面を精査し、より効果的な利用を進める必要がある。 ○教員の授業力向上のため、先進校報告会に参加するなど校外研修や校内研修を更に充実させていく。 ○個に応じた特別支援教育の充実をはかっていく。	
9		子どもが課題を持ち、対話的な学びを深める授業づくり	・課題解決学習を意識した授業実践 ・校内研究授業や他者の授業実践を参考としながらのアプローチの工夫	<成果> ○定期的に学校内外の巡回や安全点検を行い、事件や事故を未然に防ぐよう心掛けた。得られた情報などは教職員で共通理解したり、配信メールなどで保護者に注意喚起をお願いした。 ○地震・火災等学校で起こりうる災害について様々な想定のもと実践的な避難訓練を行った。「引き渡し訓練」を年度当初に移行し、いつ災害があっても初動体制が取れる工夫を行った。 ○年間指導計画のもと、養護教諭、栄養教諭、ゲストティチャー等専門職から健康安全教育を実施した。	
10		GIGA端末を効果的に活用した学習	・4年から6年までの市学習状況調査の結果から、4つのグループにおける効果的な学習スタイルの導入 ・各教科等で、ジャムボード等、GIGA端末の様々な機能を活用した効果的な学習および教科部会などでの共有	<課題> ○令和6年度市政100周年にちなみ、ふるさと川崎、麻生の町により愛着がもてる活動を取り入れていく。 ○キャリアパスポートの更なる有効活用。	
11	安全安心・健康	児童や保護者の不安や悩みを解決するために他機関と連携し、学校家庭が相互に信頼関係を確立し、連携協力できる体制づくり	・担任や支援教育Co.その他学校の教職員が受容的な態度で、児童や保護者からの相談を受ける体制づくり。 ・校内でのケース会議、チーム支援、関連機関との連携 ・保護者や児童の思いへの寄り添い	<安全管理・防災教育> ○防災対策については、年度初の引き取り訓練を引き続き実施し、「川崎市学校防災対策指針」に基づき防災マニュアルを適宜見直していく。また火災避難訓練での発煙筒利用など体験的な活動も考慮していく。 ○通学時、放課後、休業時など、町会長はじめ地域の方々に児童の見守りを依頼した。今後も継続して見守りのお願いを行っていく。下校時放課後の地域見守りを適宜教職員で行っていく。	
12		心と身体の健康を維持し、体力を向上させるために必要な知識や技能を習得し実践していく力の育成	・体育・保健分野での学習、キラキラタイム、休み時間の保障 ・養護教諭による個別または一斉の保健指導 ・栄養教諭による個別または一斉の食育指導 ・薬物乱用教室、情報モラル教室等の実施	<体力向上> ○キラキラタイム、地区別運動会の自校開催など体育の授業だけでなく日常的に体力向上に取り組む機会を確保していく。	
13		ふるさと川崎、麻生の町への愛着を深め、誇りをもって生活できる子の育成	・キャリア在り方生き方教育の推進(ゲストティチャーの招へい) ・市政100年e～ねかわさきキャンペーンへの参加 ・地域行事への参加、町探検、社会科等地域の授業 ・地域教育会議・コミュニティスクール・幼保小中連携の推進 ・田植え・稲刈り・のびのびファームなど	<心身の健康> ○不安を抱える児童だけでなく、心身の健康を保持するために支援教育Co.や養護教諭が専門性をいかした指導や助言を行ない、関係機関と連携する。 ○自らの食生活を児童が考え、実践できるよう食育の指導を栄養教諭の専門性を生かして行う。	

学校関係者の評価	学校運営のまとめ
<p>&lt;コミュニティスクール委員から&gt;  ○全学年の授業参観において、児童の落ち着いた授業態度がみられる。掲示作品は丁寧に仕上げている造形力・創造力にあふれている。  ○一方、校内で「あいさつ」をする児童が少ない。人間関係の第一歩である「あいさつ」に力を入れてほしい。</p> <p>&lt;地域から&gt;  ・町会の皆さんに子どもたちの見守りを願っている。公園での優しい行動、雪かきをして下さる方々へ児童が「ありがとうございます。」のお礼を言うなど、地域の方々からお褒めの言葉や手紙を頂戴している。</p>	<p>・教職員の人員不足から通常学級での支援の必要な児童への入り込み支援が十分に行うことができなかった。担任が授業を工夫したり机間巡視で配慮したり、また教育サポーターも支援を行い、一定の効果は見られたが、「わかった」「できた」を実感できない児童が取り残されないよう細やかな手立てが必要である。</p> <p>・GSLを中心に3年目を迎えるGIGAスクール構想推進に取り組んだ。児童が当たり前GIGA端末を活用している。次年度は、児童の情報活用能力育成を系統的に位置づけ実践することや情報モラル教育にも努めていきたい。</p> <p>・今後も学級活動や道徳において、あいさつや言葉遣いについてその良さを考えていけるような指導に努め、普段の学校生活で継続していけるよう、学校全体での取り組みを工夫していく。児童会活動のあいさつ活動の更なる工夫や、教員自身が意識してあいさつを実践していく必要がある。あたたかな人との関わりやクラスや学年の帰属感、自己有用感を高める手掛かりとして、年間テーマとしていく必要を感じる。</p> <p>・いじめ防止、人権尊重教育については、引き続き学校経営の柱として、様々な取り組みを行うほか、日々の教育活動の中で人権意識を培っていきたい。</p> <p>・保護者や地域の方々など、児童が温かく見守られていることに感謝したい。</p>